令和元年 12 月 20 日
武蔵野市役所教育委員会室
１５：１５～ １６：４５

令和元年度　第１回武蔵野市長期宿泊体験活動検討委員会　次第

１　開会

２　委嘱状交付

３　教育委員会あいさつ

武蔵野市教育委員会　教育長　竹内　道則

４　自己紹介

５　議事

（１）　委員長及び副委員長の指名

（２）　セカンドスクール等のこれまでの取組と課題について

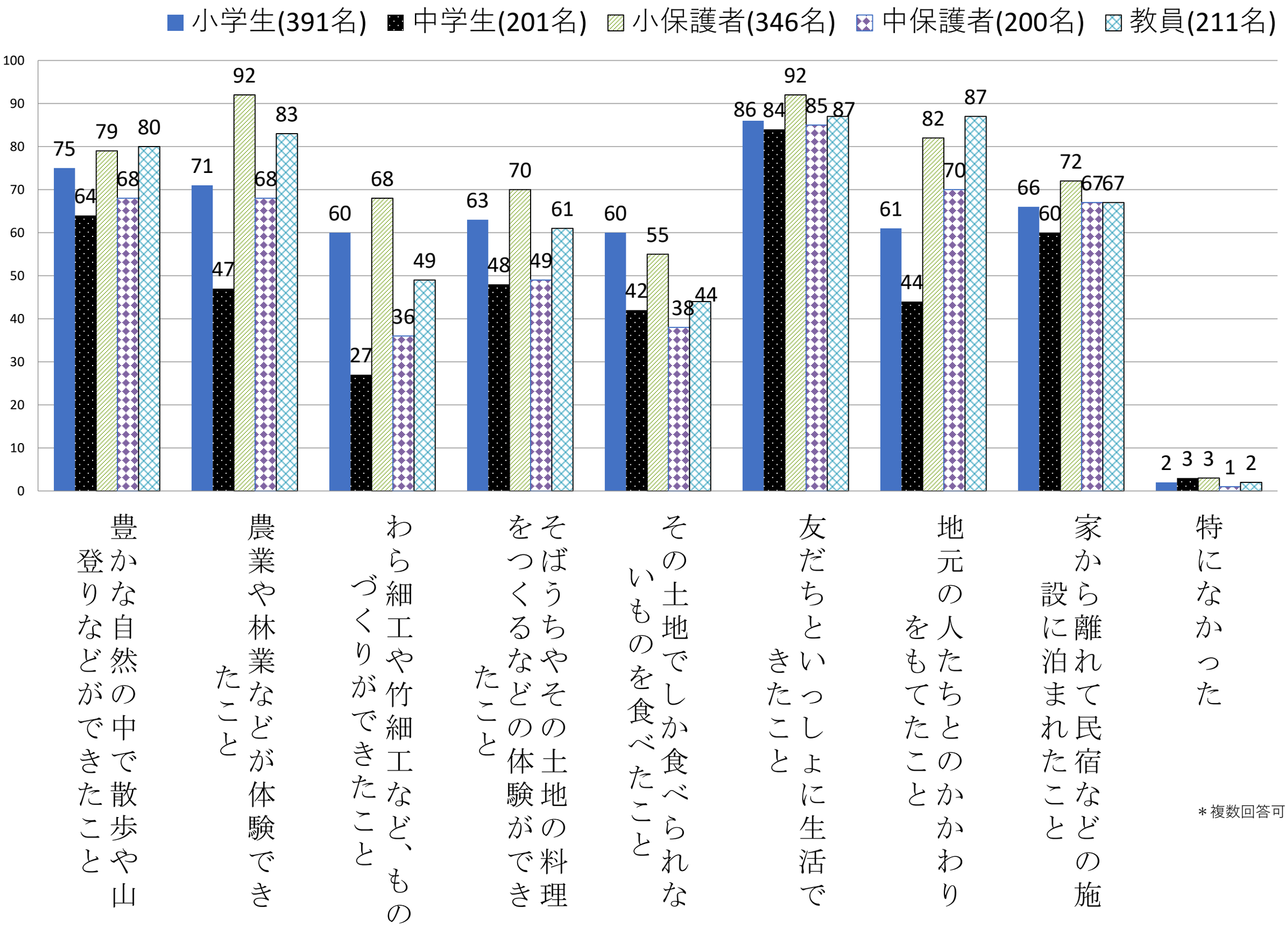
・事務局より説明

・意見交換

６　事務連絡

資料１

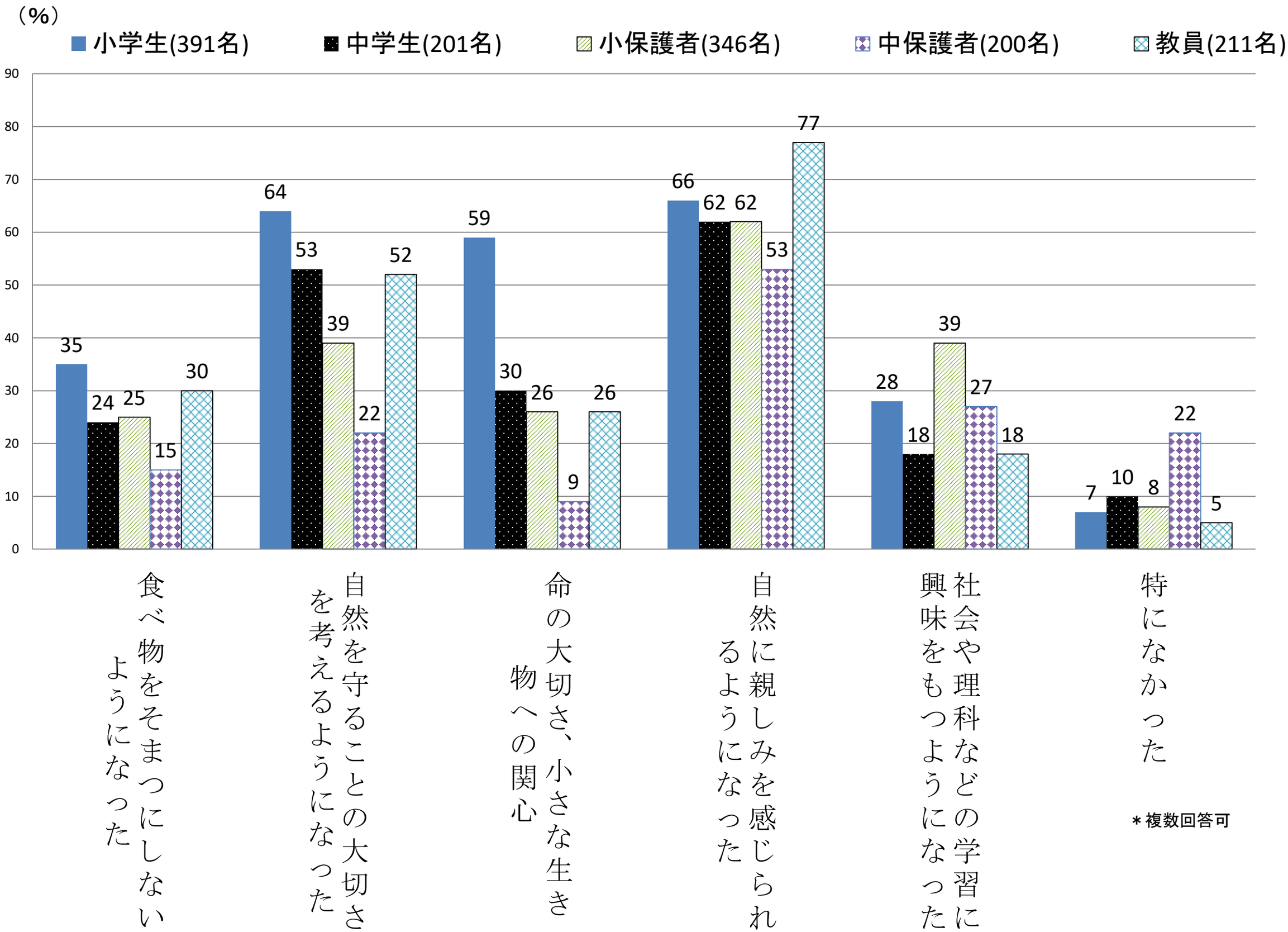
参加してみてよかったこと



＊複数回答可

「セカンドスクールにおける体験活動の教育的効果の調査」（武蔵野市教育委員会　平成28年3月）より抜粋

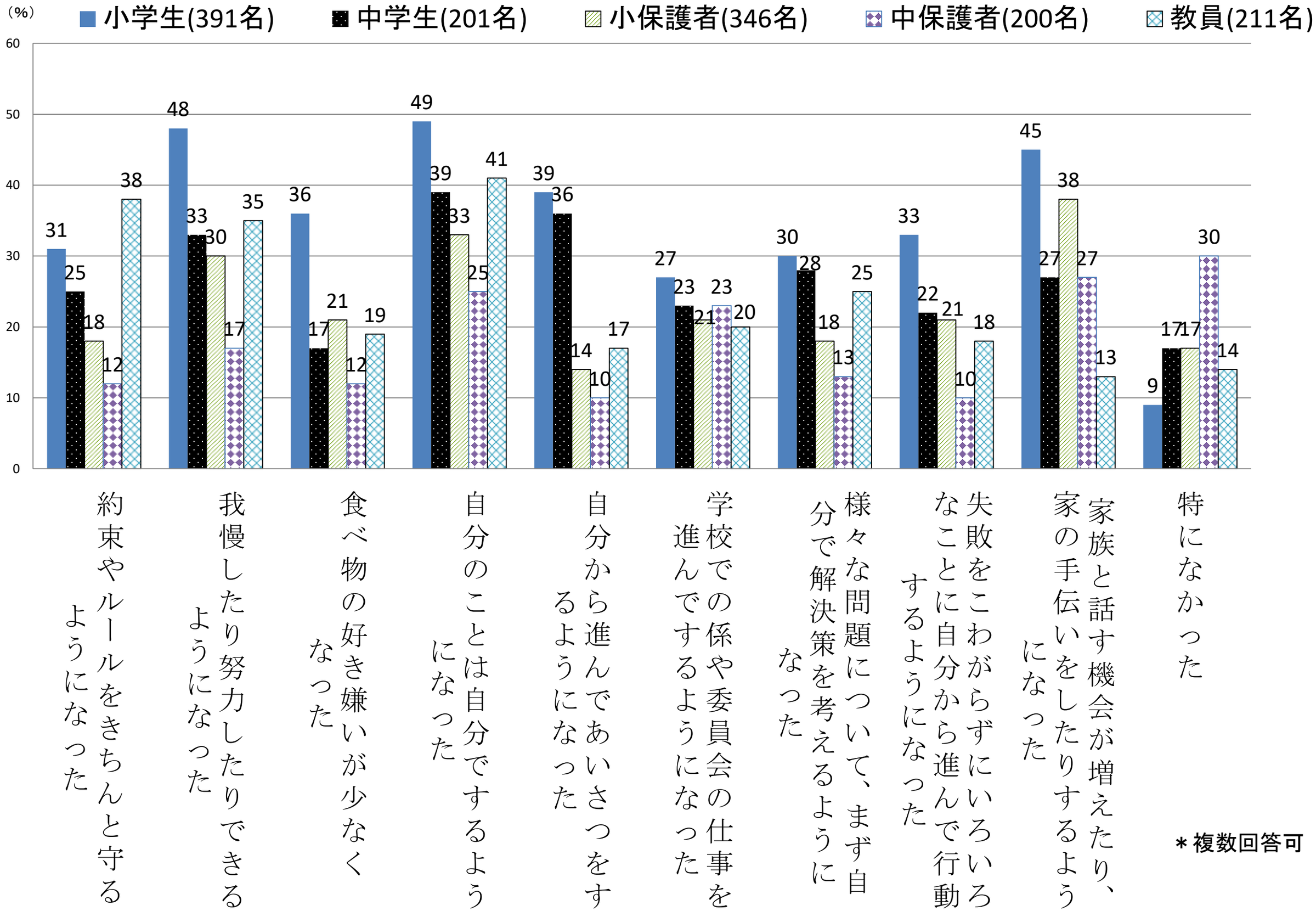
自然（豊かな情操、感性・知的好奇心、探究心）に関する効果



＊複数回答可

「セカンドスクールにおける体験活動の教育的効果の調査」（武蔵野市教育委員会　平成28年3月）より抜粋

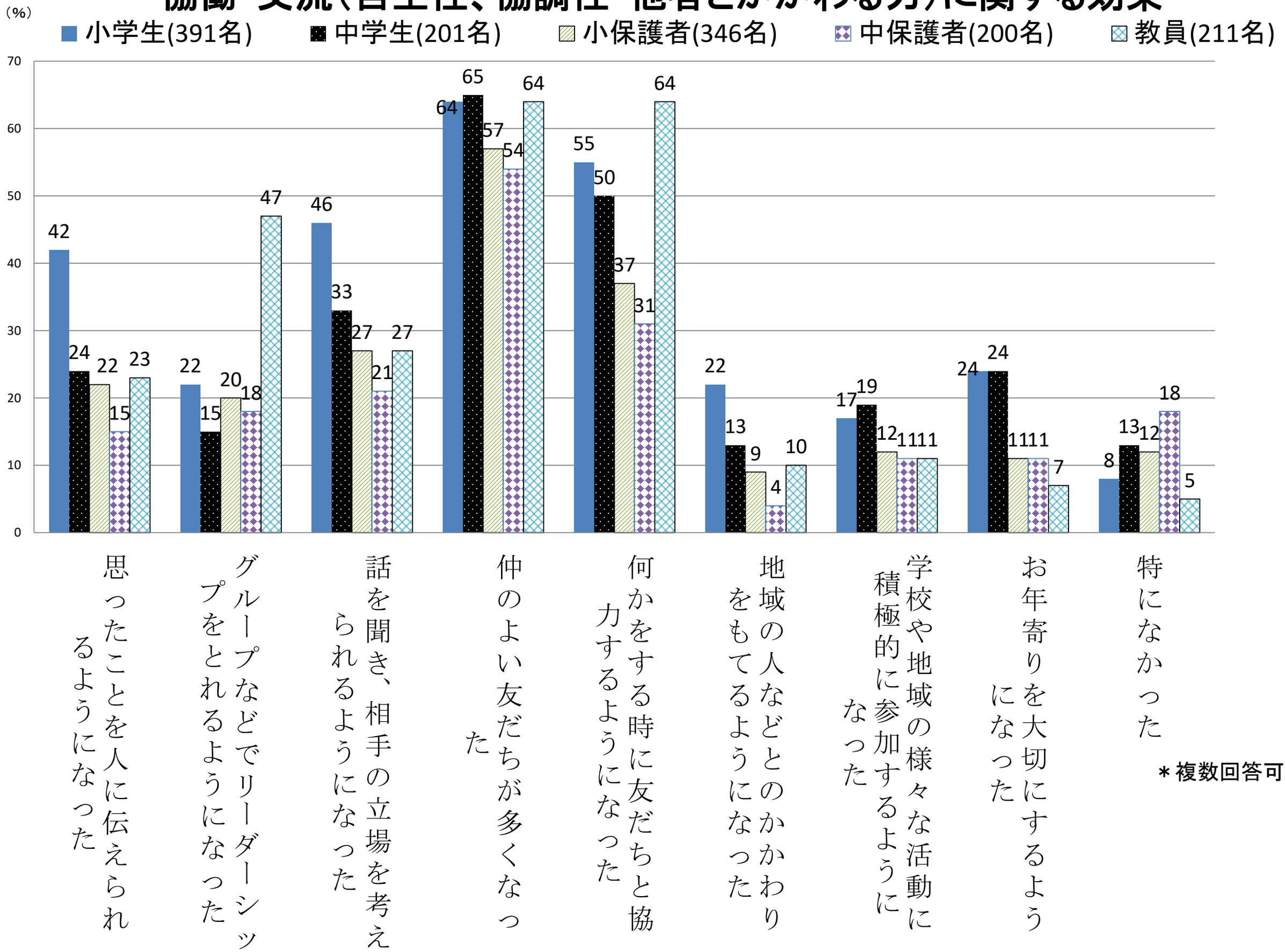
長期宿泊（集団生活、生活自立・豊かな人間関係）に関する効果



＊複数回答可

「セカンドスクールにおける体験活動の教育的効果の調査」（武蔵野市教育委員会　平成28年3月）より抜粋

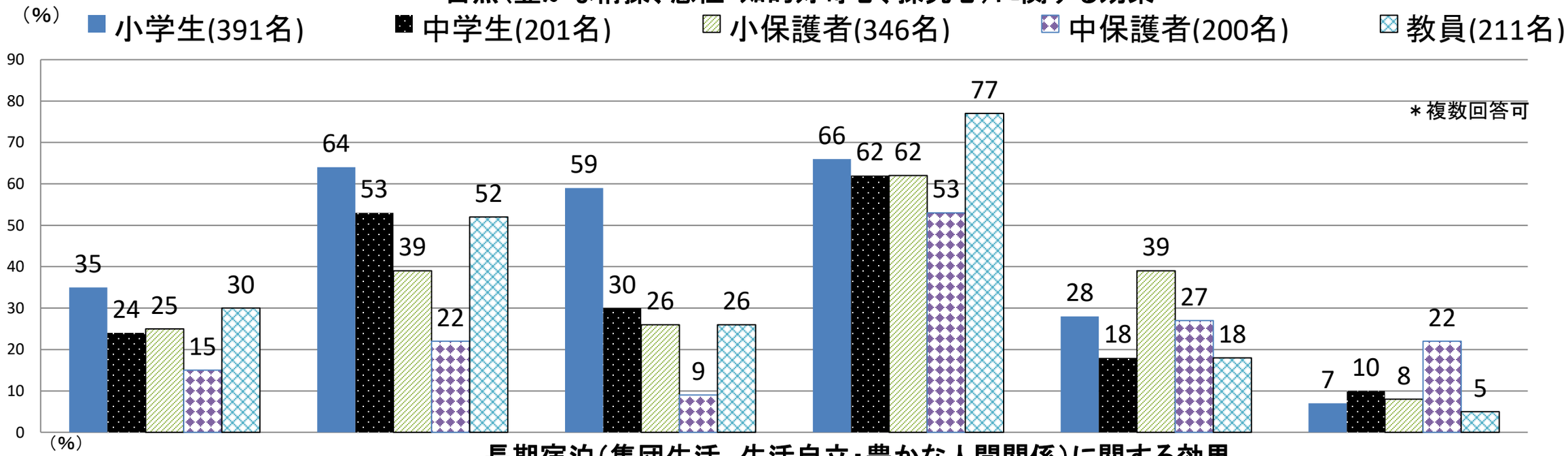
協働・交流（自主性、協調性・他者とかかわる力）に関する効果



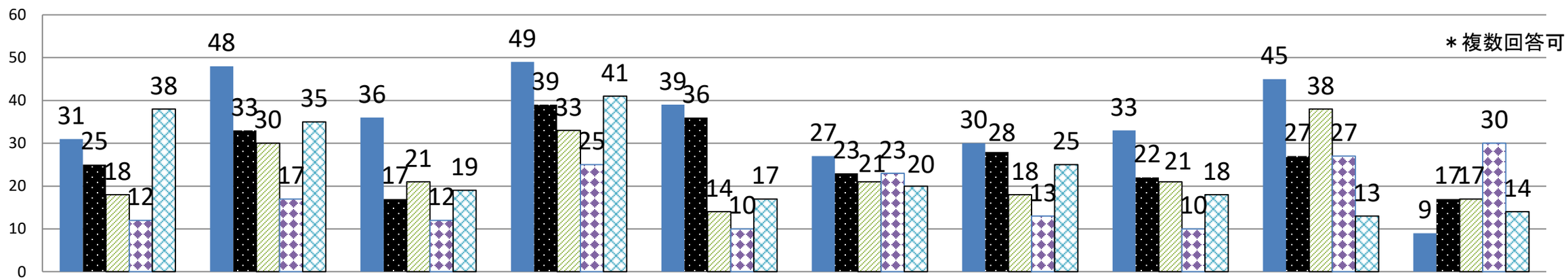
＊複数回答可

「セカンドスクールにおける体験活動の教育的効果の調査」（武蔵野市教育委員会　平成28年3月）より抜粋

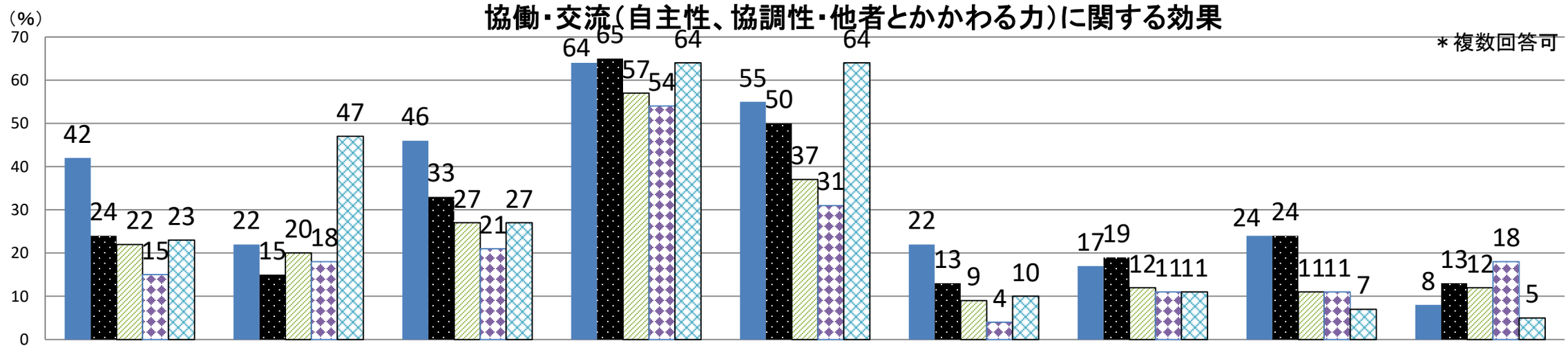
自然（豊かな情操、感性・知的好奇心、探究心）に関する効果



長期宿泊（集団生活、生活自立・豊かな人間関係）に関する効果

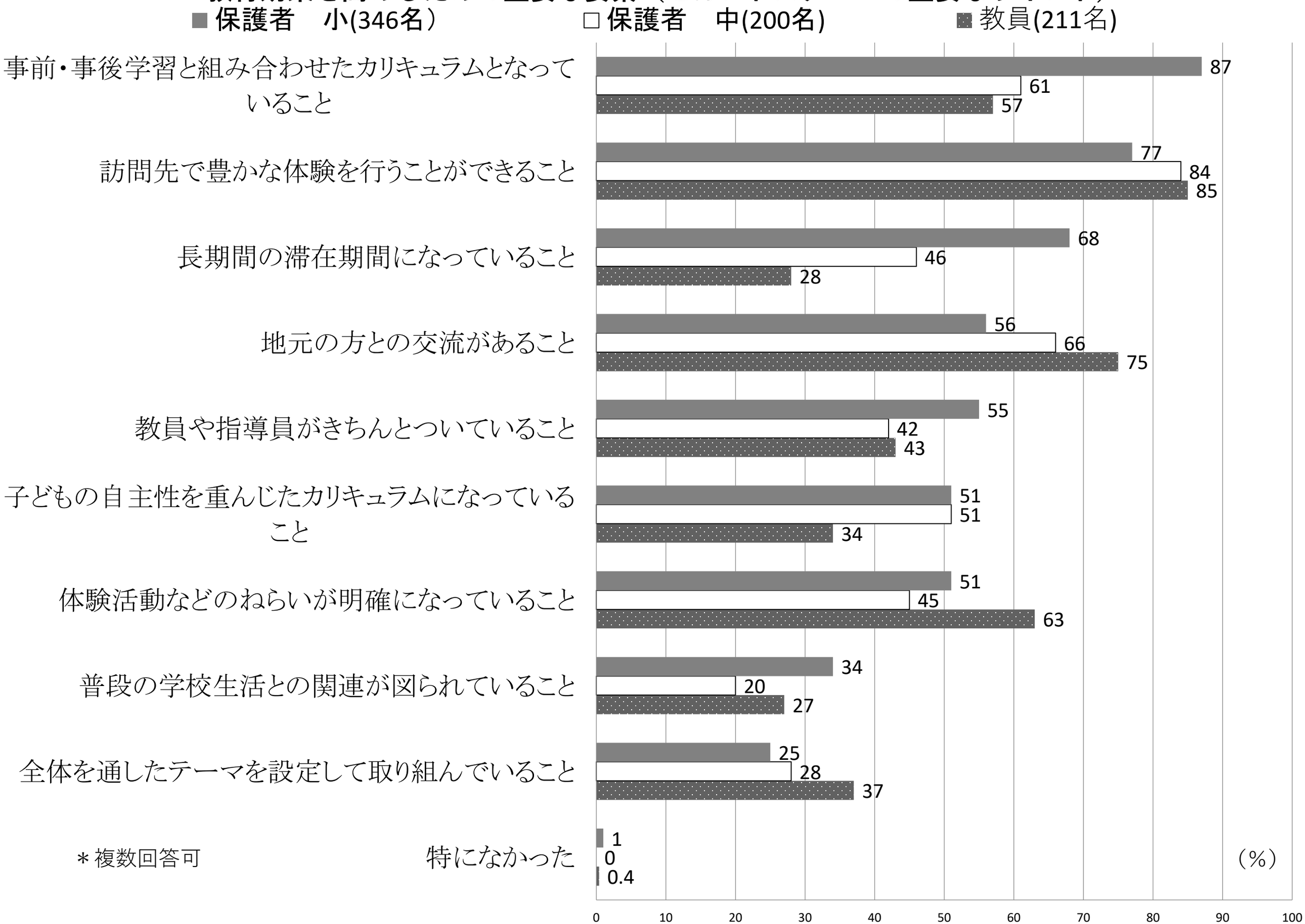


協働・交流（自主性、協調性・他者とかかわる力）に関する効果



「セカンドスクールにおける体験活動の教育的効果の調査」（武蔵野市教育委員会　平成28年3月）より抜粋

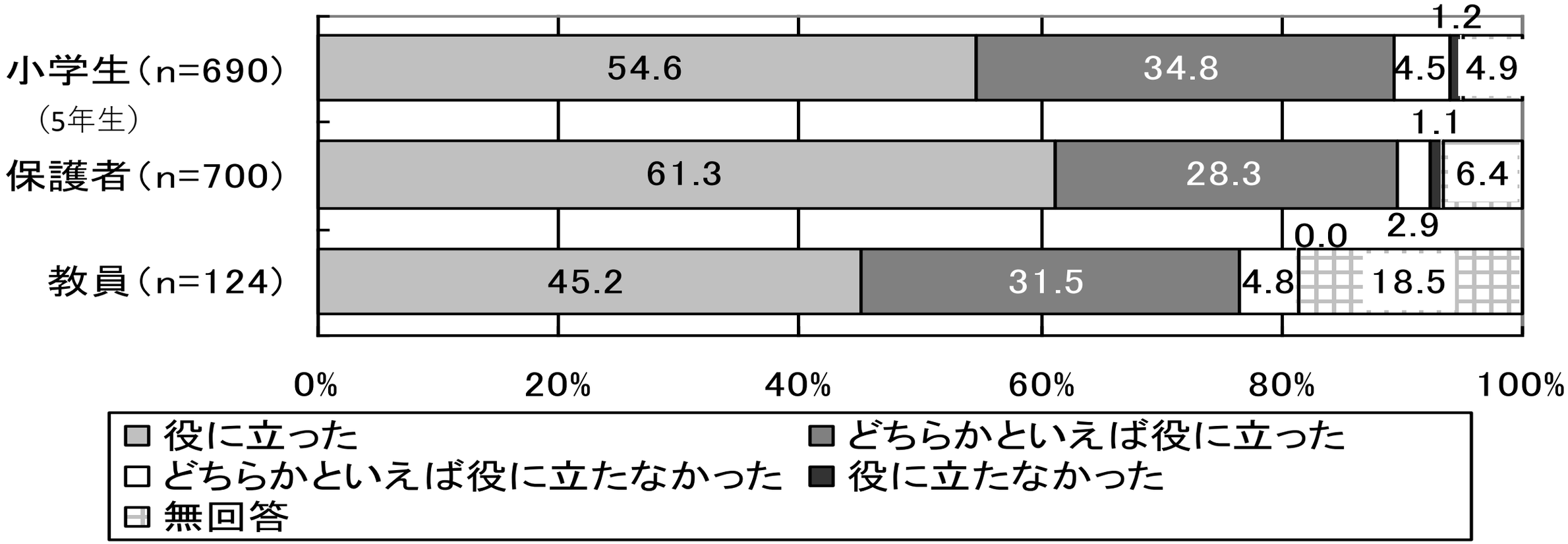
教育効果を高めるための重要な要素（セカンドスクールの重要なポイント）



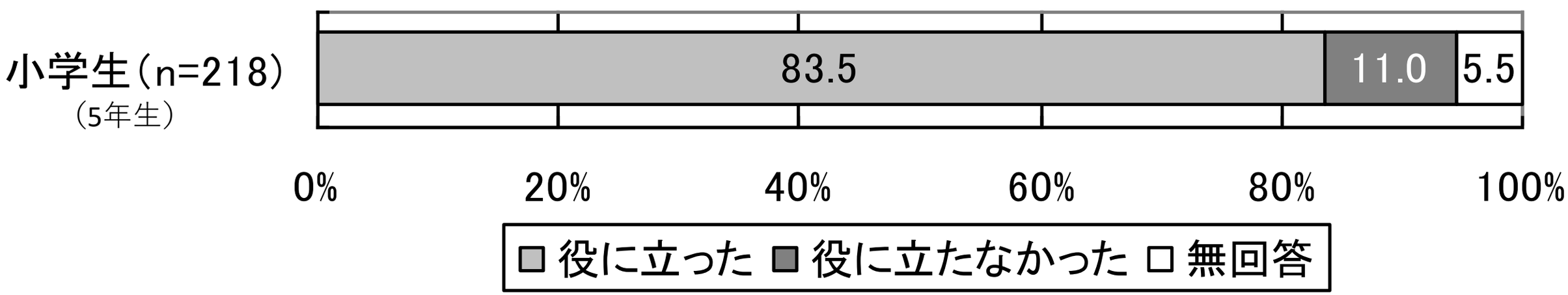
＊複数回答可

「セカンドスクールにおける体験活動の教育的効果の調査」（武蔵野市教育委員会　平成28年3月）より抜粋

プレセカンドスクールについての評価（平成23年度調査）

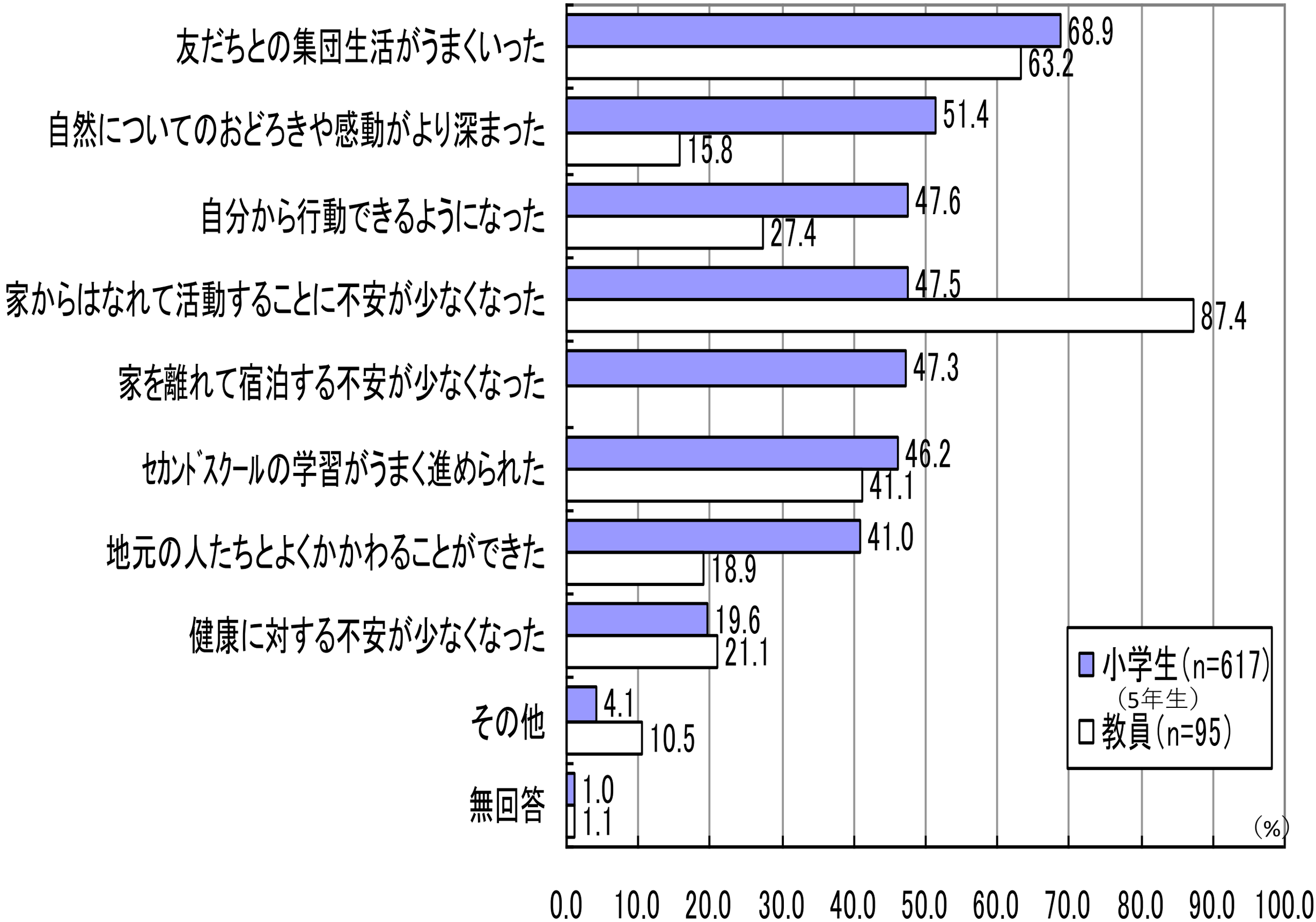


プレセカンドスクールについての評価（平成16年度調査）



「セカンドスクールにおける体験活動の教育的効果の調査」（武蔵野市教育委員会　平成23年3月）より抜粋

プレセカンドスクールの役だった点



「セカンドスクールにおける体験活動の教育的効果の調査」（武蔵野市教育委員会　平成23年3月）より抜粋

別紙２

武蔵野市長期宿泊体験活動検討委員会　委員名簿

区分	氏名	所属・職名等
学識経験者	小山田　穣	元　東京学芸大学特任教授
武蔵野市立小中学校長会を代表する者	赤羽　幸子	井之頭小学校長
	宮崎　倉太郎	境南小学校長
	若槻　善隆	第六中学校長
武蔵野市立小中学校の教諭	田中　裕介	第五小学校主幹教諭
	中瀬　雅美	桜野小学校主幹教諭
	西尾　未和	第四中学校主幹教諭
武蔵野市立小中学校の児童生徒の保護者	三原　忍	第一中学校ＰＴＡ会長
	後藤　真澄	第二中学校ＰＴＡ会長
	塚田　晃浩	関前南小学校ＰＴＡ会長
教育部長	福島　文昭	－
教育部指導課長	秋山　美栄子	－
教育部統括指導主事	小澤　泰斗	－

セカンドスクールのこれまでの取組と課題

令和元年12月20日
武蔵野市長期宿泊体験活動検討委員会　資料３

１　児童・生徒の実態

○セカンドスクール検討時の子どもたちの課題

・自然と直接触れ合う機会の減少　・直接体験の減少
・無感動、無関心な子　・夢や希望をもてない子
・集団の一員としての意識の不足

○上記課題と関連した現在の状況（平成30年度全国体力・運動習慣等調査より）

①平日のテレビ、ゲーム機、スマートフォン等の視聴時間

小5 1h未満：32.0%　1～3h：49.8％　3～4h13.5％　5h以上：4.8％
中2 1h未満：14.7%　1～3h：61.5％　3～4h15.7％　5h以上：8.2％

②将来の夢や目標を持っていますか。（平成31年度全国学力・学習状況調査等より）

小6 ある：61.3％　どちらかと言えばある：19.1％
どちらかと言えばない：11.2％　ない：8.5％
中3 ある：39.6％　どちらかと言えばある：29.6％
どちらかと言えばない：16.9％　ない：13.4％

２　セカンドスクールの経緯

Ｈ４年度　「夏季山村生活体験学習」として長野県八坂村にて試行
（宿泊数は6泊7日）
Ｈ５年度　「山村生活体験教室」として、岩手県遠野市にて夏休み中に試行
（宿泊数は12泊13日）
Ｈ７年度　全小学校の５年生を対象として学期中に実施
（宿泊数は3泊4日～7泊8日）
中学校は全校の希望する1年生対象に夏季休業中に実施
（宿泊数は6泊7日）
Ｈ８年度　全中学校の１年生を対象として学期中に実施
（宿泊数は3泊4日。Ｈ11年度に全校4泊5日に）
Ｈ17年度　セカンドスクールの効果を高めるため、全小学校で４年生を対象にプレセカンドスクールを開始　（宿泊数は2泊3日）

現　在
小学校セカンドスクール　6泊7日もしくは7泊8日
プレセカンドスクール　2泊3日
中学校セカンドスクール　4泊5日

３　プレセカンドスクールの成果と課題

（セカンドスクールにおける体験活動の教育的効果の調査・実施報告書等より）

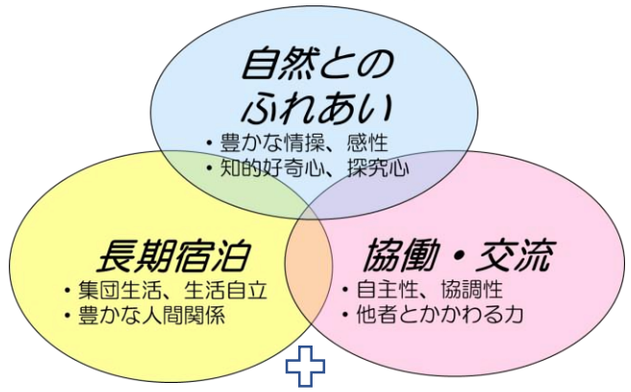
○成果

・セカンドスクールへの不安の軽減。
・事前学習、現地での学習、事後学習という学習の流れを経験することで、セカンドスクールでの学び方を身に付けることができる。
・自然とのふれあいを通して、豊かな情操や感性等を育む。
・集団生活の基礎を身に付けることができる。

○課題

・2泊3日という短い期間の中で、急な天候の変化によるものなどを児童の体力等に合わせてプログラムを対応させる。
・現地見学先での学習内容や、講話内容等について、綿密に連携を図り、児童にとって理解しやすいものにする。
・分宿の場合、生活指導員、宿との円滑な連携。

セカンドスクールのキーワードと育成を目指す資質・能力



○農山漁村の活性化への寄与
○探究の過程を大切にした確かな学力の向上

４　小学校セカンドスクールの活動例とねらい

箸作り体験	生活に必要な知識を身に付け、食への感謝の気持ちを育てる。
星空観察	訪問地と武蔵野市の夜空を比べ、自然の豊かさに気付く。
稲刈り・脱穀等体験	昔からの手法の稲刈りや現在の機械の活用を体験的に学ぶ。
里山体験・ﾄﾚｯｷﾝｸﾞ	自然を生かした工作や登山を通して、訪問地の植物や気候を知る。
宿別体験活動	宿ごとに周辺散策、収穫体験等を行い、暮らしの違いを感じる。
郷土食作り	訪問地の郷土料理作りを体験し、伝統や文化を感じる。
課題別学習	訪問地の施設（ダム、観光施設、市街地）等、自分が決めた課題を体験などすることで現地の自然、文化、伝統などを学ぶ。
現地小学校等と交流	現地校との交流を通して、内容企画のための協力の大切さを学ぶとともに、互いの暮しについて理解を深める。

５　中学校セカンドスクールの活動例とねらい

ポスターセッション	現地中学生と互いの住む地域のプレゼンテーションとセッションを通して、市民科と関連付けながら学習をする。
星空観察	事前学習を踏まえ星の見える条件等から自然環境の大切さを考える。
農家農業体験	稲刈り、脱穀等の体験を通して、協力や問題解決の力、食への感謝の心を育む。
現地ハイキング	現地の自然に触れ、自然環境の大切さを考える。
民泊体験活動	現地の方と食育等の意見交換を行い、考えを深め、社会性を養う。
環境学習	現地インストラクターの協力を基に、訪問地の自然の散策、水生生物の観察、スケッチする学習を行い、自然との関わりを考える。
現地中学校等と交流	宿泊地周辺の施設を見学したり、現地の方や中学生から話を聞く中で、興味・関心を高め、訪問地の特色を学ぶ。

６　成果（児童・生徒の感想より）

〈自然について〉
・樹海は、300年経ってもまだ子どもの森だ、ということに大変驚いた。東京には緑が少ない　ため、もっと木を増やし、自然を大切にしたいと思いました。
・ブナ森ハイキングでは、ブナの働きと水の関係について教えてもらい、飯山の米作りはブナが深く関わっていることを知りました。
・上の原地区での自然体験では、たくさんの水生生物を見ることができてうれかったです。豊かな自然環境が残っていることが分かりました。これからも自然を大切にしていきたいと思います。
〈直接体験について〉
・稲刈り体験では米の収穫の仕方についてわかり、食べ物を大切にしよう思いました。
・農家体験では、植えるまでにたくさんのことをしなければならないと実感しました。
・郷土料理の笹ずし作りでは、腐らないように笹を使いそのまま捨てられるなど、昔の人の知恵はすごいなと思いました。
・生きたままの岩魚をさばくのは大変でした。命の大切さを学んだので、食べる時は感謝の気持ちをもって残さないようにしました。
〈感動した体験について〉
・ハコネサンショウウオを捕まえることができて嬉しかった。
・6泊7日の生活で、自分のいいところとこれからがんばった方がいいことが見つかりました。班のみんなに助けてもらったから、班長の仕事をがんばることができた。
・みんなと集団生活を送り、様々な体験活動をしたことで、人の気持ちを考えること、一人一人が責任をもつこと、みんなで支え合うことの大切さに気付き、これからも大事にして　いこうと思った。

セカンドスクール・プレセカンドスクール
実施報告書（平成31年3月）より

７　実施にあたっての課題

○平成22・27年度の課題（セカンドスクールにおける体験活動の教育的効果の調査）

・長期宿泊（生活自立、豊かな人間関係）に関する効果が、自然に関する項目や協働・交流に関する項目の効果と比較して低い。
・中学校のカリキュラムに対する期待値や変容度が小学校と比べて低い。

○現在の課題（実施報告書等より）

・子どもの実態にあったプログラムの設定（数と内容）
・授業時間の確保（総合的な学習の時間の多くが、セカンドスクール等で使われ、他の取組を設定しにくい。）
・武蔵野市民科との関連　・事前・事後学習のつながり
・民宿の方の高齢化　・生活指導員の質・量の確保

８　新学習指導要領との関連

小学校　新学習指導要領総則 第1章 第3（5）より

児童が***生命の有限性***や***自然の大切さ***、***主体的に挑戦***していることや多様な***他者と協働する***ことの重要性などを実感しながら理解することができるよう、各教科等の特質に応じた***体験活動を重視***し、家庭や地域社会と連携しつつ***体系的・継続的***に実施できるように工夫すること。（※中学校　新学習指導要領も同様）

小学校　新学習指導要領総則 第1章6の3より

学校や学級内の人間関係や環境を整えるとともに、***集団宿泊活動***やボランティア活動、***自然体験活動***、地域の行事への参加などの***豊かな体験を充実すること***。（※中学校は、集団宿泊活動が職場体験活動に置き換わる）

小学校　新学習指導要領解説特別活動編より
「遠足・集団宿泊的行事」の実施上の留意点

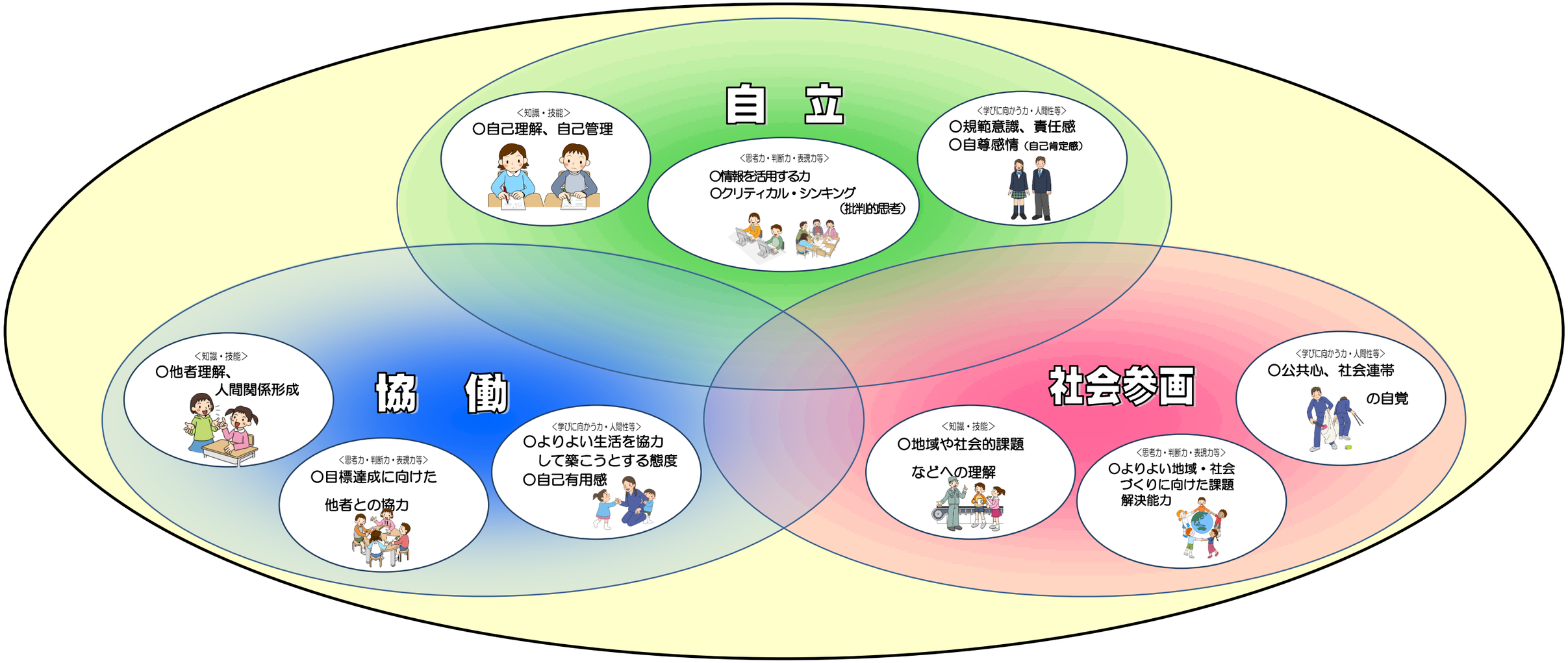
集団宿泊活動については、よりよい人間関係を形成する態度を養うなどの教育的な意義が一層深まる（略）そこで、学校の実態や児童の発達の段階を考慮しつつ，***一定期間（例えば１週間（５日間）程度）にわたって行うことが望まれる***。（※中学校には、記載されていない）

資料４

武蔵野市立小学校プレセカンドスクール実施要綱（抜粋）	武蔵野市立小中学校セカンドスクール実施要綱（抜粋）
（目的） 第1条　この要綱は、武蔵野市立小学校がセカンドスクール（武蔵野市立小中学校セカンドスクール実施要綱（平成14年11月１日施行）に規定するセカンドスクールのうち小学校第5学年で実施するものをいう。以下同じ。）を実施するにあたり、同要綱第1条に掲げるねらいの達成に寄与するため、プレセカンドスクールを実施することにより、次に掲げるねらいを達成することを目的とする。 ⑴　自然との触れ合いを通して、子どもたちの豊かな情操や感性をはぐくむとともに、子どもたちの知的好奇心や探究心を喚起し、課題解決への意欲や態度を培う。 （2）　短期の宿泊体験を通じて、集団生活の基礎を身に付けるとともに、子どもたちの豊かな人間関係を育てる。 （3）　子ども同士の協働により、自主性や協調性を育てるとともに、現地の人々との交流を通じて、進んで他者とかかわる力を培う。 （4）　学年ごとの発達段階や子どもたちの実態を踏まえ、セカンドスクールの内容との関連を考慮し、学習効果及び学習意欲を高める。	（目的） 第1条　この要綱は、武蔵野市立小中学校に在籍する児童及び生徒が、授業の一部を自然に恵まれた農山漁村に長期間滞在して行い、普段の学校生活（以下「ファーストスクール」という。）では体験し難い総合的な体験学習活動を行うセカンドスクールを実施することにより、次に掲げるねらいを達成することを目的とする。 ⑴　自然との触れ合いを通して、子どもたちの豊かな情操や感性をはぐくむとともに、子どもたちの知的好奇心や探究心を喚起し、課題解決への意欲や態度を培う。 ⑵　長期にわたる宿泊体験を通し、生活自立に必要な知識や技能を身に付けるとともに、子どもたちの豊かな人間関係を育てる。 ⑶　子ども同士の協働により、自主性や協調性を育てるとともに、現地の方々との交流を通じて、進んで他者とかかわる力を培う。
（実施学年） 第2条　実施学年は、小学校第4学年とする。	（実施学年） 第2条　実施学年は、小学校においては第5学年、中学校においては第1学年とする。
（活動内容） 第3条　プレセカンドスクールで実施する指導内容は、総合的な学習の時間、教科、特別活動及び道徳とし、各学校が創意をもって学習活動を計画し、実施するものとする。 ２　武蔵野市立学校の管理運営に関する規則（昭和 50 年6月武蔵野市教育委員会規則第2号）第17条の規定により、校長は、プレセカンドスクールの教育課程への位置付けを武蔵野市教育委員会（以下「委員会」という。）に届け出なければならない。	（活動内容） 第3条　セカンドスクールで実施する指導内容は、それぞれの実施学年の総合的な学習の時間、教科、特別活動及び道徳とし、各学校が創意をもって学習活動を計画し、実施するものとする。 ２　武蔵野市立学校の管理運営に関する規則（昭和50年6月武蔵野市教育委員会規則第2号）第17条の規定により、校長は、セカンドスクールの教育課程への位置付けを武蔵野市教育委員会（以下「委員会」という。）に届け出なければならない。

武蔵野市民科は
「社会の一員として、よりよい地域・社会づくりに参画していく資質・能力」の育成を目指します

育成を目指す 資質・能力



自他共に幸福な人生の創り手へ

武蔵野市民科は「自己・学校・地域・社会など」から課題を見付け、解決に向けて取り組む学習です

新たな課題の探究へ

もっと自分たちのまちを調べたり、
自分の生活を見つめ直したりしよう！

①課題設定 → ②情報収集 → ③整理・分析 → ④発信・実行

①課題設定

「自分たちのまちのよさは何か」「働くとはどういうことか」等、自己や地域・社会などから、学習課題を見付けます。

例）小学校第6学年 境南とことん研究所（31ページ）

日光移動教室で見つけた「日光のよさ」の視点から「自分たちのまちのよさ」を考えよう！

例）中学校第3学年 武蔵野市改造計画―ズバリ市長に提言―（35ページ）

武蔵野市のよさや課題について、ブレインストーミングで様々な意見を出し合おう。

②情報収集

図書資料等を使った調べ学習、保護者や地域住民、事業者、市役所への聞き取りなど、課題について情報を集めます。

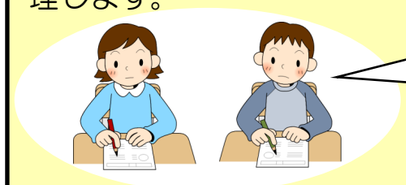
まちの施設のことや、昔の出来事を地域の人に教えてもらおう！

実体験をとおして感じたり、学んだりすることも大切です。

例）小・中学校 高齢者疑似体験
中学校第2学年 職場体験学習

③整理・分析

ウェビングマップやピラミッドチャート等の「考えるための技法（思考ツール）」を使って考察するなど、自分の考えを整理します。



自分たちのまちのよさって何だろう？そして、これからのまちに必要なものは…

グループで考えを共有・議論する中で、思考を深めていくことも大切です。

④発信・実行

地域や社会に自分たちがどう関わっていくかを考え、できることから発信・実行していきます。

まちのよさをアピールしたパンフレットを作って駅に置いてもらおう！

これからのまちに必要なものの提言やアイディアを、皆に聞いてもらおう！

武蔵野市民科の全体構想

Ⅰ　武蔵野市民科の趣旨（詳細は51～56ページ）

複雑で予測困難な時代
- ○国際化や情報化、技術革新
- ○地域コミュニティの機能低下

これからの学校の求められるもの
- ○社会に開かれた教育課程
- ○カリキュラム・マネジメント

第二期武蔵野市学校教育計画
- ○施策19「市民性を高める教育の推進」「自立・協働・社会参画」の視点からの取組

第二期武蔵野市学校教育計画
基本理念
知性・感性を磨き、
自ら未来を切り拓く
武蔵野の教育

武蔵野市の特徴・よさ
- ○市民意識の高さ
- ○地域の教育力の高さ

武蔵野市の子どもたちの実態
- ○地域や社会への関心が高い
- ○社会参画意識の更なる醸成が必要

「市民性を高める教育」のこれまでの取組
- ○各教科等の年間指導計画の見直しと実践
- ○児童会・生徒会など自治的活動の推進

「武蔵野 市民科」

＜目標＞　武蔵野市民として、自己・学校・地域・社会の中から課題などを見付け、解決しようと取り組むことをとおして、自他共に幸福な人生の創り手となるために必要な「自立」「協働」「社会参画」に関する資質・能力を育てる。（詳細は13、14ページ）

○Ⅱに示した「資質・能力」は一度の学習で全て網羅する必要はありません。

○武蔵野市民科を実施する小学校第5学年から中学校第3学年の間に、計画的に育成していくことが大切です。

Ⅱ　育成を目指す資質・能力（詳細は14～18ページ）

	自立（自己を確立する）	協働（目標達成に向けて協力する）	社会参画（進んで社会に関わる）
主に「知識・技能」の習得に関する項目	・自己理解、自己管理	・他者理解、 人間関係形成	・地域や社会的課題などへの理解
主に「思考力・判断力・表現力等」の育成に関する項目	・情報を活用する力 ・クリティカル・シンキン	・目標達成に向けた他者との協力	・よりよい地域・社会づくりに向けた課題解決能力
主に「学びに向かう力や人間性等」の涵養に関する項目	・規範意識、責任感 ・自尊感情（自己肯定感）	・よりよい生活を協力して築こうとする態度 ・自己有用感	・公共心、社会連帯の自覚

自他共に幸福な人生の創り手へ

○平成31年度からの２年間を武蔵野市民科の準備・試行期間に設定します。

○各学校では、指導計画等の作成、実践、課題の抽出と検討をお願いします。

○小学校低・中学年は、これまでとおり、市民性を高める教育を行っていきます。

Ⅲ　武蔵野市民科の内容

①実施学年等
（詳細は19ページ）

- ○小学校第5学年から中学校第3学年まで、各学年で年1単元以上実施する。
- ○特別支援学級は、子どもの実態に応じた指導計画をできるだけ1単元以上位置付ける。

②教育課程上の位置付けと評価
（詳細は20、26ページ）

- ○総合的な学習の時間、各教科、特別の教科 道徳、特別活動等を教科横断的に組み合わせる。
- ○中核となる教科等での評価が基本となる。多くの場合、総合的な学習の時間が中心となる。

③学習の基本的な考え方
（詳細は21、22ページ）

- ○探究的な学習過程（課題設定→情報収集→整理・分析→発信・実行）による指導計画を作成･実施する。
- ○指導計画には、Ⅱに示した資質・能力のどの育成を目指すかを明らかにする。

④取り扱う学習テーマの例
（詳細は25、57～61ページ）

- ○キャリア発達
- ○福祉・ボランティア
- ○武蔵野の魅力発信
- ○環境
- ○伝統・文化理解
- ○安全・防災
- ○まちづくりへの参画
- ○主権者
- ○国際理解
- ○長期宿泊体験活動